

今後の管理のポイント

- ・ 雑草や青立ち株の抜き取りを実施し、汚粒発生の防止に努めましょう。
- ・ 適期刈取を心がけ、刈り遅れにならないよう注意しましょう。
- ・ 品質低下を防ぐために、乾燥時の温度管理を徹底しましょう。

## 1 気象経過

○最高・最低気温は8月第3半旬から第4半旬にかけて大幅に平年を下回りました。また9月第1半旬から第2半旬にかけても平年を下回りましたが、それ以外の期間は概ね平年並から平年より高くなりました。

○日照時間は8月第2半旬から第5半旬にかけて平年より少照となりました。

○降水量は8月第3半旬、9月第5半旬、10月第1半旬にまとまった降雨がありました。8月、9月ともに月の合計降水量は平年を下回りました。

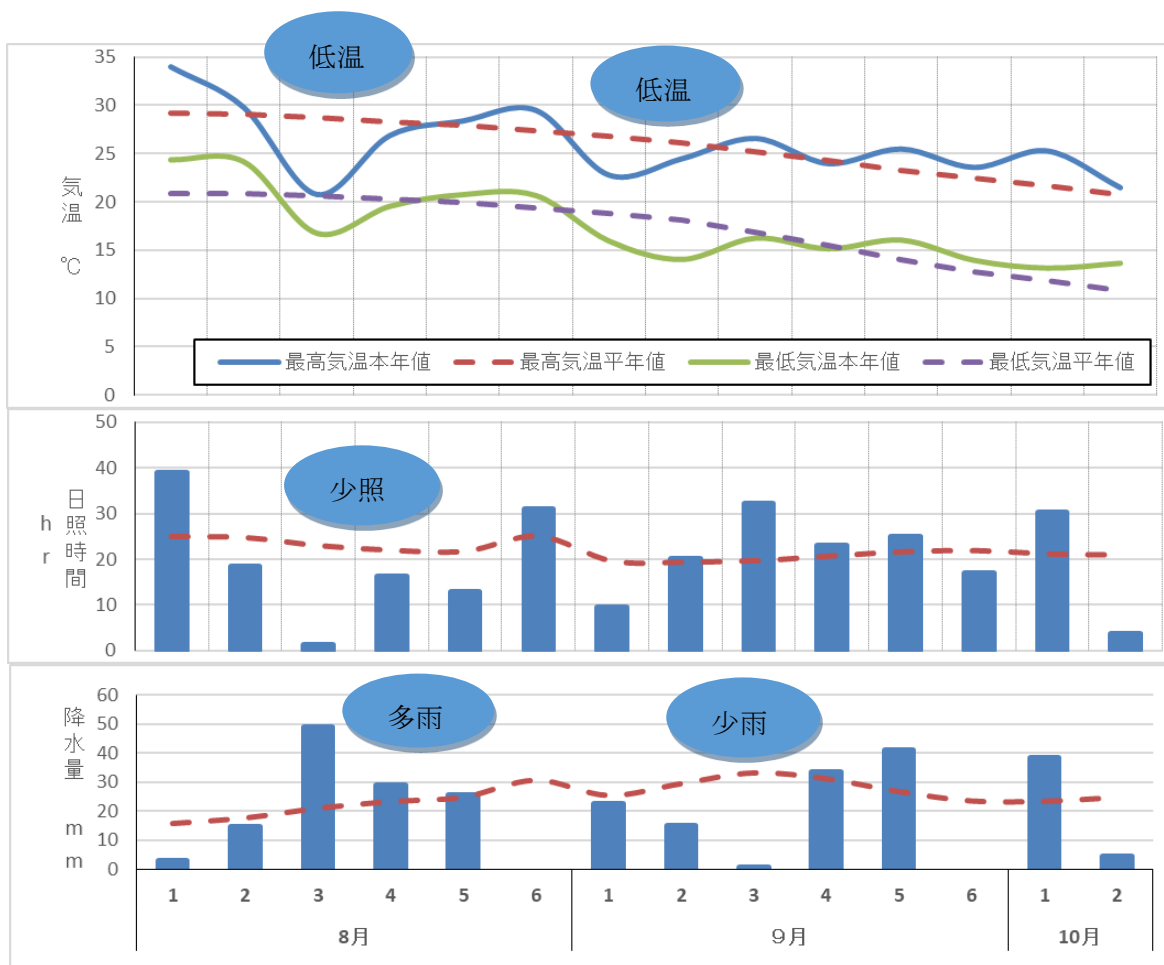


図1 8月第1半旬～10月第2半旬の気象（点線は平年値）

## 2 生育概況 ～ 9月の好天により生育は順調 ～ ～タンレイは落葉期，ミヤギシロメは黄葉期～

茎長はほ場による差が大きく，古川タンレイ・小野田タチナガハでは平年を下回っていますが，古川ミヤギシロメ・三本木きぬさやかでは平年並からやや長くなっています。

主茎節数はすべてのほ場において，平年を下回る結果となりました。

分枝数は古川ミヤギシロメでは平年をやや上回る結果となりましたが，他のほ場では平年より少なくなっています。

古川タンレイでは10月10日に落葉期を迎えており，他の調査ほ場では黄葉期となっています。

表1 生育調査ほの生育調査結果

地区名 品種名	区分	8月31日～9月1日		
		茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
古川 タンレイ	本年	47.1	12.6	2.6
	平年比	71%	83%	78%
古川 ミヤギシロメ	本年	92.8	15.5	4.3
	平年比	105%	92%	105%
三本木 きぬさやか	本年	66.8	13.3	3.2
	平年比	103%	97%	91%
小野田 タチナガハ	本年	55.2	13.4	2.6
	平年比	77%	94%	85%

※ 平年比は，過去5か年（平成28年～令和2年）の平均値との比較。



古川タンレイ（8月31日）



古川ミヤギシロメ（8月31日）



古川タンレイ（10月13日）



古川ミヤギシロメ（10月13日）

図2 調査ほの生育状況（8月31日，10月13日）

### 3 今後の栽培管理のポイント

#### (1) ほ場の確認

○排水対策：ほ場表面に水が停滞しないように、排水口や暗きよの点検整備などの排水対策を行いましょう。

○雑草・青立ち株の抜き取り

- ・刈取時に水分の高い雑草が残っていると、汚粒の原因となります。雑草は種子が落ちる前に早めの手取り除草を行いましょう。特に、イヌホオズキ等の高水分の果実をつけた雑草は、茎葉が枯れても果実が汚粒の原因になるので刈取前に抜き取りましょう。
- ・青立ち株（生育が不揃いで茎葉が青く、落葉していない株）は茎水分が高く、刈取時に子実を汚損する恐れがあるので、刈取前に抜き取りましょう。

#### 汚粒の原因となる雑草



タデ類  
(オオイヌタデ)



アメリカセンダングサ



ホソアオゲイトウ



イヌホオズキ

#### 収穫後の難防除雑草対策について

- 帰化アサガオ類やアレチウリなどの難防除雑草が多発したほ場では、翌年も多発が予想されます。耕起前に**非選択性除草剤の散布**を行いましょう。
- 特にアレチウリ（特定外来生物）は、大豆ほ場での発生が増加しています。周辺での発生がないか注意してください。



帰化アサガオ類



アレチウリ

## (2) 適期刈取の実施

- 刈取が遅れると品質低下等に繋がるので、適期の刈取を行いましょう。
- 刈取適期は、成熟期の10～20日後頃とされていますが、天候とほ場状況を考慮しながら行いましょう。
- 高水分で刈取しないように、刈取前には子実水分を測定しましょう。

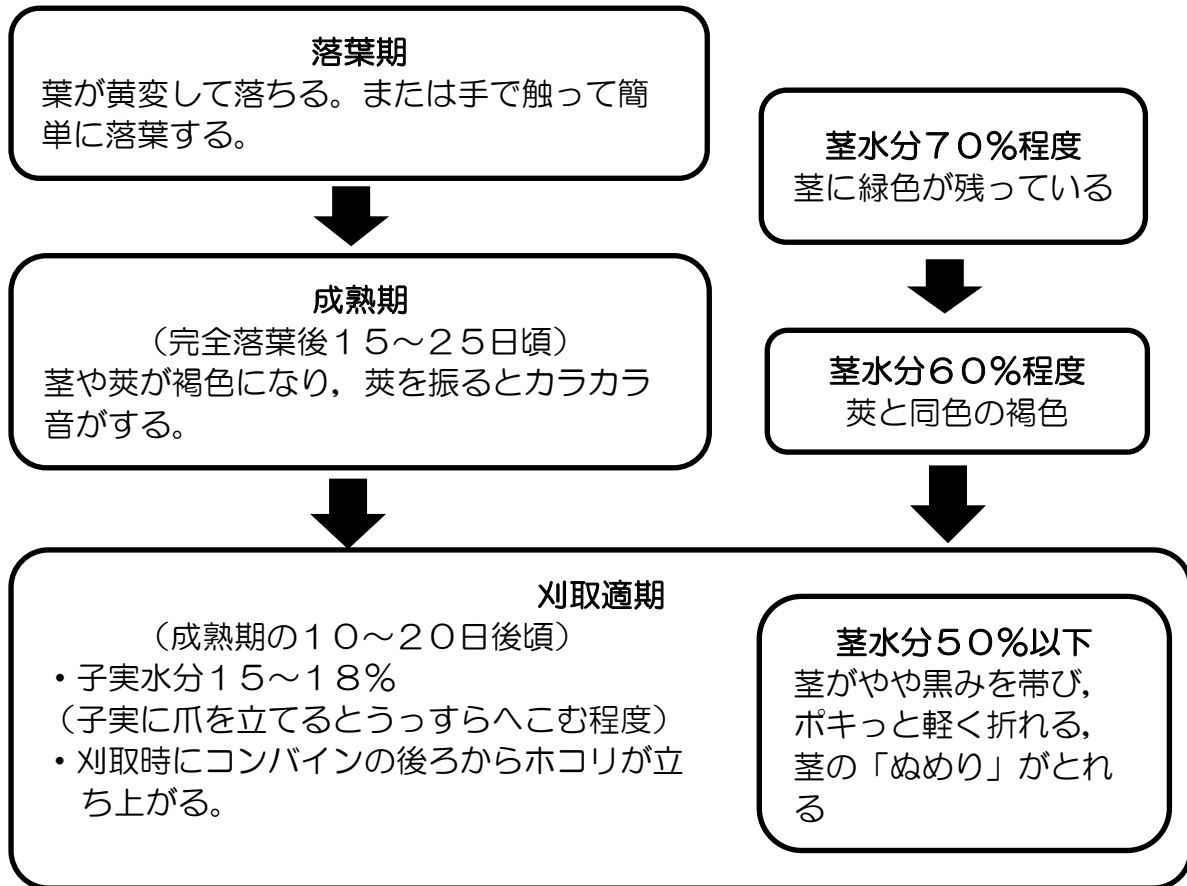


図3 大豆の成熟経過とコンバイン刈取適期

### コンバイン刈取時の留意点

- 子実水分が高いと「つぶれ豆」が発生するため、子実水分は15～18%
- 茎水分が高いと「汚粒」が発生するため、成熟期以降の茎水分50%以下
- 刈取時刻の目安は、前日・当日とも晴天の場合、午前10時～午後4時頃です。※前日が雨の場合は作業を控えましょう。
- 汚粒発生の大きな要因は「土の掻き込み」です。刈刃が土を掻き込まないように刈り取りの高さは10cm程度としましょう。
- 難防除雑草が繁茂したほ場は、コンバインに種子が付着して、他のほ場に移動させてしまう恐れがあるので、最後に刈取るようにしましょう。

### (3) 乾燥作業

- 大豆は粒が大きいいため、外側は水分が抜けやすく、内側の水分は外側に移動しにくいという特徴があります。急激な乾燥は、しわや裂皮など、被害粒の発生原因となりますので、品質低下を防ぐためにも温度管理に注意しましょう。
- ほ場によって子実水分のバラツキが大きい場合があるので、こまめに水分測定を行いましょう。

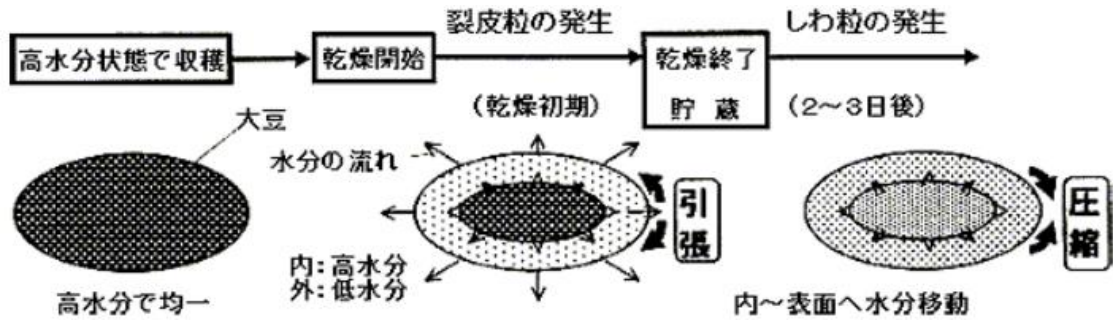


図4 大豆乾燥における被害粒発生機構

#### 乾燥時の注意点

- ・循環式乾燥機等火力乾燥では、熱風温度を30℃以下とし、裂皮粒やしわ粒の発生を抑えましょう。
- ・やむを得ず子実水分18%を超えるロットを乾燥させる場合は、熱風温度をさらに低め（常温または25℃以下）に設定しましょう。
- ・送風温度は、晴天時には常温乾燥（無加温）とし、雨天・夜間は常温+5℃程度を目安としましょう。
- ・仕上げ子実水分は13%程度（検査基準は15%以下）にしましょう。

#### ～今年産の大豆を振り返ってみましょう～

刈取りした大豆の中に被害粒がないか確認してみましょう。以下のような被害粒が多い場合、来年産からの病害虫防除を徹底しましょう。



写真1



写真2



写真3



写真4

写真1：紫斑病による「紫斑粒」

写真2：マメシンクイガによる「くちかけ粒」

写真3：フタスジヒメハムシによる「黒斑粒」

写真4：フタスジヒメハムシによる「腐敗粒」

※病害虫の防除時期や防除体系については、「令和3年産大崎地域の大豆作技術情報第4号」をご参照ください。

## 東北地方 1 か月予報

(10月16日から11月15日までの天候見通し)

令和3年10月14日

仙台管区气象台 発表※抜粋

### <予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並の確率が40%です。降水量は多い確率が40%です。日照時間は少ない確率が40%です。

週別の気温は、1週目は低い確率が70%です。2週目は高い確率が50%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	30	40	30
【降水量】	東北太平洋側	30	30	40
【日照時間】	東北太平洋側	40	30	30

### <気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	70	20	10
2週目	東北地方	20	30	50
3～4週目	東北地方	20	40	40

### ◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中(9月1日～11月30日)◆◆◆◆◆

機械操作のミスと、過信と慣れによる安易な作業が重大事故に結びつき、依然として農作業死亡事故が発生しています。また、作業機付きトラクターの公道走行の正しい基準を理解して、より一層の事故防止に努めましょう。

スローガン 「見直そう! 農業機械作業の安全対策」